

# 13の重点プロジェクト

東日本大震災・原子力災害からの復興・再生の視点により、特に取り組むべき課題を重点プロジェクトとして推進しています。

(事業数および事業費とも重複事業含む)

プロジェクト	内容	事業数	事業費
<b>人口減少・高齡化対策</b>	人口の県外流出の抑制、出生数の回復、高齢者の元気で豊かな暮らし、本県活力の向上	47 事業	1,423 億円
<b>環境回復</b>	除染の推進、食品の安全確保、廃棄物等の処理、拠点の整備	34 事業	2,455 億円
<b>生活再建支援</b>	県内外避難者支援、帰還に向けた取り組み、帰還後の生活再建支援、長期避難者などの生活拠点の整備、当面ふるさとへ戻らない人への支援、避難者を支える仕組み	48 事業	1,443 億円
<b>県民の心身の健康を守る</b>	県民の健康の保持・増進、地域医療などの再構築、最先端医療提供体制の整備、被災者等の心のケア	37 事業	360 億円
<b>未来を担う子ども・若者育成</b>	日本一安心して子どもを産み育てやすい環境づくり、生き抜く力を育む人づくり、ふくしまの将来の産業を担う人づくり	75 事業	316 億円
<b>農林水産業再生</b>	安全・安心を提供する取り組み、農業の再生、森林林業の再生、水産業の再生、区域見直しに伴う対応	67 事業	646 億円
<b>中小企業等復興</b>	県内中小企業などの振興、企業誘致の促進、新たな時代をリードする新産業の創出、区域見直しに伴う対応	35 事業	1,577 億円
<b>再生可能エネルギー推進</b>	再生可能エネルギーの導入拡大、研究開発拠点の整備、再生可能エネルギー関連産業の誘致、県内企業の参入・取引支援、再生可能エネルギーの地産地消の推進	11 事業	72 億円
<b>医療関連産業集積</b>	医療福祉機器産業の集積、創業拠点の整備	5 事業	174 億円
<b>ふくしま・きずなづくり</b>	福島県内におけるきずなづくり、県外避難者やふくしまを応援している人とのきずなづくり、ふくしまにおける復興へ向けた取り組みや情報の発信、ふるさとへ戻らない人とのきずなの維持	40 事業	51 億円
<b>ふくしまの観光交流</b>	観光復興キャンペーンの実施、観光と多様な交流の推進	21 事業	14 億円
<b>津波被災地等復興まちづくり</b>	「多重防御」による総合的な防災力が向上したまちづくり、地域防災計画などの見直し、防災意識の高い人づくり・地域づくり、地域とともに取り組む土地利用の再編や復興のまちづくり計画策定および実施	19 事業	888 億円
<b>県土連携軸・交流ネットワーク基盤強化</b>	「浜通り軸」の早期復旧・整備と生活を支援する道路の整備、災害に強く信頼性の高い本県の復興を推進する道路ネットワークの構築、本県の物流、観光の復興を支える基盤の整備、JR常磐線・只見線の早期復旧、災害時における広域的な連携・連絡体制の構築	14 事業	412 億円

次ページで詳しく解説

問 県庁復興・総合計画課 ☎ 024 (521)7809 ●ホームページに詳しい資料を公開しています。HP 福島県復興・総合計画課 検索

知事  
メッセージ

「新生ふくしま」胎動の年

福島県知事 佐藤 雄平

大震災から3年。

この間、インフラの復旧が進み、観光地のにぎわいも戻りつつあるなど、県民の皆さんと一丸となつて取り組んできた成果が、目に見えるようになってきました。

平成26年度は、復興を前へ前へと進めていくため、総合計画に掲げる13の重点プロジェクトをさらに推進していく考えです。

中でも、復興公営住宅の入居開始や本県の未来を拓く各種拠点の着工・開所など、それぞれの取り組みが新たな段階に入ります。

これらを着実に進め、新たな福島県の姿をお示ししながら、復興の流れをより大きく、確かなものにしてまいります。



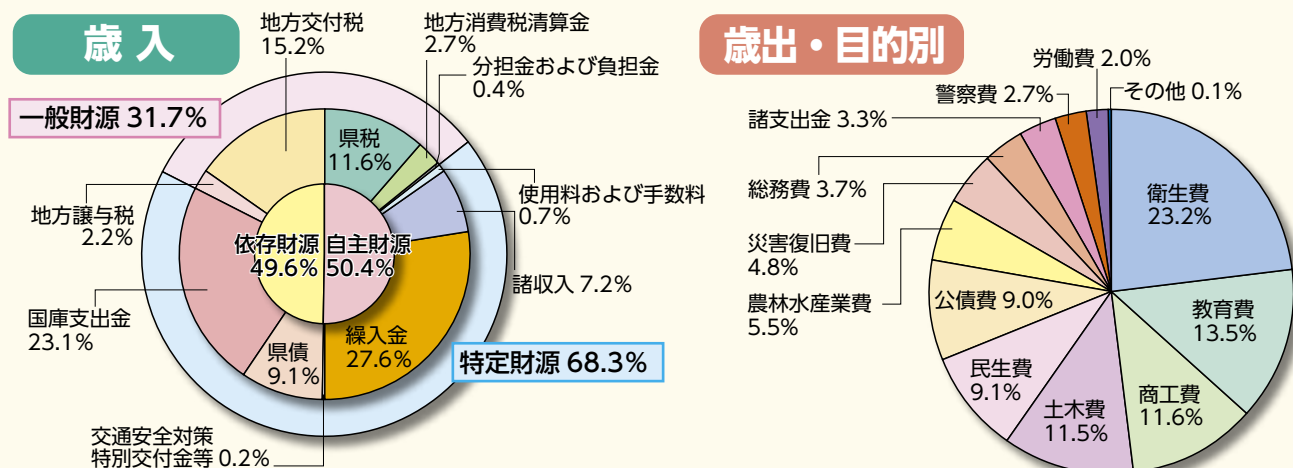
# 福島県当初予算 1兆7145億円

## うち震災・原子力災害 対応分 8705億円



平成26年度予算は、これまでの復興の道筋をより確かなものにしていくための重要な予算です。総額は1兆7,145億円で、県政史上最大規模となった昨年度とほぼ同水準となり、その半分以上にあたる8,705億円が震災・原子力災害対応に充てられます。復興公営住宅をはじめ、医療機器の安全性評価や除染技術の研究拠点施設の整備を進めるなど、県総合計画「ふくしま新生プラン」に基づき、施策を効果的に展開していきます。

### 平成26年度一般会計予算



☎ 県庁財政課 ☎ 024 (521)7029 ● ホームページに詳しい資料を公開しています。 HP 福島県財政課 検索

### 産業の創出・集積や地域産業の発展につなげ「活力あるふくしま」をつくっていきます



平成26年度は、環境創造センターやふくしま国際医療科学センターをはじめとするさまざまな拠点施設の着工など、これまでの復興に向けた取り組みが次なるステージに入ります。

これらの拠点を、産業の創出・集積や地域産業の発展につなげ「活力あるふくしま」をつくっていくとともに、世界中から集まる研究者との交流などにより、未来を担う人材をふくしまから育てていきます。



13の重点プロジェクトの1つ

人口減少・高齢化対策プロジェクト

人口減少や高齢化の影響を小さくすることは、本県の復興・再生のために重要な取り組みであることから、「出生数の回復」、「人口の県外流出の抑制」、「高齢者の元気で豊かな暮らし」、「本県の活力の向上」の観点から事業を選定し、最優先に予算配分を行いました。

◆主な新規事業を紹介します。

ふくしまからはじめよう。  
ハンサム起業家育成・支援事業

女性の仕事と子育ての両立や、若者の県内定着を促進するため、起業を希望する女性や若者向けの相談会や起業塾を開催する。また、子育て支援機能を備えた共用の職場を設置するなど、事務所借り上げ等の初期経費を補助する。

☎ 県庁産業創出課 ☎ 024(521)7283

ふくしまで  
“新しいコトをはじめたい”  
を応援



ふくしまからはじめよう。  
高齢者社会参加活動支援事業

元気な高齢者に高齢化社会の担い手として活動してもらうとともに、高齢者の生きがいづくりを支援するため、介護職員初任者研修の受講に要する経費を助成する。また、高齢者が地域の子どもたちとその親に、昔ながらの知恵や技術の継承を行うなどの世代間交流の取り組みを推進する。

☎ 県庁高齢福祉課 ☎ 024(521)7163

ふくしまで  
“いきいき元気”に  
はじめよう



ふくしまからはじめよう。  
“元気発信”動画コンテスト事業

“福島の元気な姿”を発信し、福島の魅力の回復を図るため、復興に関連した映像作品を県内の“子どもや若者たち”から募集する。また、作品は県のホームページなどに掲載し、さまざまな手段を通じて県内外に発信する。

☎ 県庁復興・総合計画課 ☎ 024(521)7809

ふくしまから  
“元気発信”  
はじめよう



本県から世界へ羽ばたくアスリートの養成を支援する『ふくしまから世界へ！「ふくしま夢アスリート」育成支援事業』

「ふくしまからはじめよう。」の取り組み強化

県のスローガンである「ふくしまからはじめよう。」には、一人一人が復興に向けて歩みはじめよう。そして、ふくしまから新たな流れを創っていく。という未来への意志が込められています。

このスローガンの下、再生可能エネルギー先駆けの地を目指す未来へ向けた取り組みや、本県に心を寄せる方々との「縁」を醸成させた交流など、復興に進む前向きなイメージを発信してきました。

今後、この取り組みを強化するため、「ふくしまからはじめよう。」の趣旨にあった38事業を選定し、重点的に推進することで、これまで以上に本県の新たな流れを創り出していく考えです。

